

## 教育心理学教室メンバーの研究状況報告

出来、面接によるデータ収集に努めてきた。研究経過並びに成果の一部は本紀要に発表されている。

今後これらの資料を基に分析を加えていくが、目下の分析視点としての関心は、共同体としてのムラの凝集性を弱化させるに影響を及ぼしたと考えられるもの（具体的な価値実体）の発見と、それに伴う価値意識の変化過程を分析することにより、共同体の内側からの崩壊の要因を明らかにしていくことにある。それと共に、今少しマクロな視点から過疎現象を扱ってみたい、言わば「過疎生活指標」の発見の為の諸資料収集について考慮中である。当面の課題としては、田中国夫氏等の研究になら

い、「生活指標」及び「過疎地域類型」の発見を目指している。

又、今回我々のグループの採った（採らざるを得なかった）面接法によるデータ収集は、今後このデータを利用して論を展開する以上、必然的に重大な意味を持つが、データのもつ信憑性、代表性についての基本的な方法論的検討を考えていきたいと思っている。これは「過疎」研究を離れて、純粋に方法論の問題に帰着するが、見田氏の「質的データ分析の方法論」や「要因連関図」の考案、川喜田氏の K. J. 法などとの関わりから、質的データ利用の方法を考えてみたい。

### この一年間の研究過程についての報告

力 富 敬 子

これという研究はしませんでした。このたびの紀要に報告しなければならないとのことですので、強いて次のようなものをあげてみました。

(1) 「読書レディネス・テスト作製の試み」

大西誠一郎、塚原美代子、三神広子他による共同研究に参加。「読書レディネス・テスト作成の試み」(3)を日本教育心理学会12回総会で口頭発表。

(2) 「信じない」ということに関する研究 (I) 一質問紙法による基礎資料の分析一

太田信夫他との共同研究に参加。

(3) 「被暗示性に関する発達的研究」その(1) (修論の一部をまとめたもの) を「催眠研究」に投稿。

(4) 「被暗示性に関する発達的研究」その(2)を考慮中。

(5) 「幼児の心理と保育」(大西誠一郎編著)の中の「人格の発達」について分担執筆。

(6) 「個別知能テストの妥当性に関する研究」(仮称)市川千秋他との共同研究を検討中。

(7) 学習心理学特殊演習

社会 “ ”

発達 “ ”

精神欠陥学 “ ”

心理学研究法

研究指導演習

受講中

太 田 信 夫

主な研究なし

### この一年間における研究活動について

加 藤 義 男

障害児といわれる子供の問題について関心を持ち続けている。そして、障害児の問題に何故とりくむのか、どんな構えでとりくもうとしているのかといった点についてくり返し自問してきたつもりである。

現代的な状況のなかで、私自身、疎外されている一面を感じており、同時に、そうした疎外状況をより強くうけているのが障害児であろうと考える。そうした認識にたつ時、障害児と私とは同一平面上に並んでおり、気負

もなく、一人の人間として、彼らに接近していける気がする。また一面では、私自身、そうした子供を疎外している側にたっている事を強く感ずる。そこから、障害児のために何かしていきたいという動機づけが湧いてきている。

こうした考えのなかで、精神薄弱といわれる子供の問題に焦点をあて、特に彼らの人格形成の問題について考えている。そのなかで、発達とは何なのかといった問題

## 教育心理学教室メンバーの研究状況報告

や、精神薄弱児における教育の無限の可能性とは何なのかといった問題が提出され、考えさせられてきている。そして、発達の視点にたつて、精神薄弱児の人格形成の問題を考えていくという方向を明確化し、横断的方法及び縦断的方法の両者による検討をすすめてつある段階である。

以下具体的な諸点について述べていきたい。

- (1) 精神薄弱児の人格特性としての「硬さ」の問題をとりあげ、Lewin-Kounin の認知的硬さ理論を否定する方向で打ち出されてきている Zigler, E. らの動機づけ理論に注目してきている。そして、施設収容の問題をも含ませて、社会的遮断の考えにもとづく硬さに関する動機づけ理論についての実験的な検討を実施してきており、その結果を1969年度修士論文として提出した。
- (2) 名古屋市内にある、精薄幼児のための母子通園施設

である「愛育園」に毎週1～2回行き、そこでの精薄幼児とのかかわりあいの場をもつなかで、人格の発達という問題を考えつつ観察記録やケース記録をとってきている。同時に、精薄幼児の治療教育の問題について関心をもってきている。

- (3) 1970年8月下旬の愛知県心身障害者コロニーにおける実習に参加し、重度精薄児とのとりくみの体験をするなかで、彼らへの接近における方法的な問題を中心として考えてきている。
- (4) 精神薄弱者の適応行動尺度の標準化に関する研究の協同研究者の一人として参加してきている。
- (5) 臨床クリニックにおける自閉症児の治療活動に参加し、そのなかで、自閉症児における治療のあり方を中心的な問題として考えてきている。